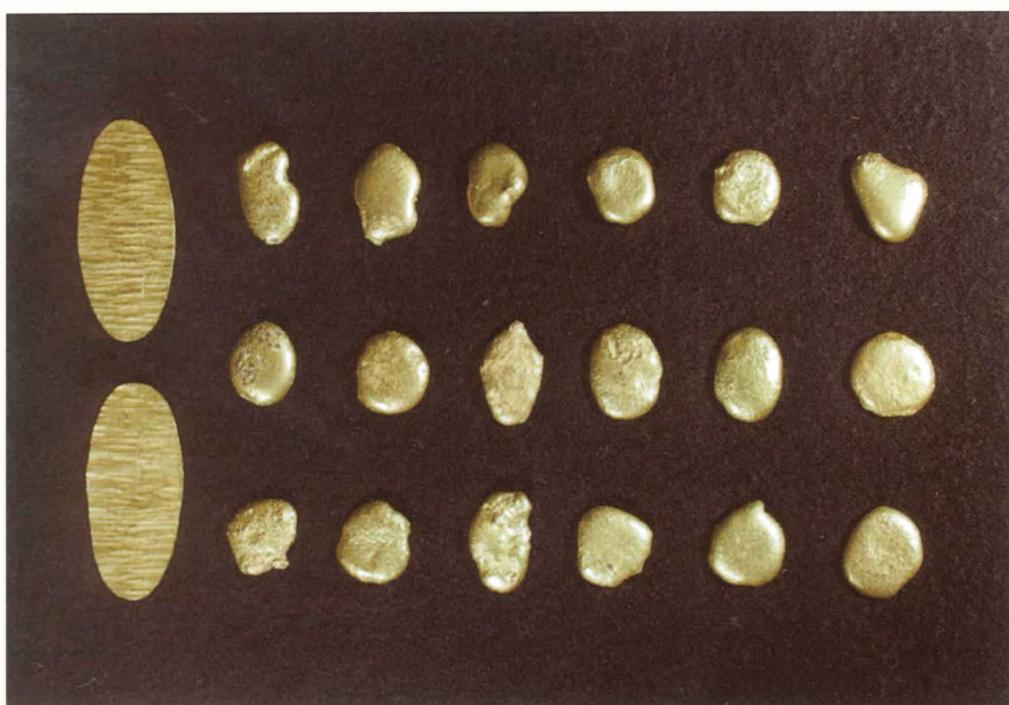


開府500年を
学ぶ
No.5

こうしゅうきんかへい 甲州金と貨幣



かいくにきんざん たけだしんげん ちちのぶとら
甲斐の国の金山は、武田信玄の父信虎ま
そふのぶつなじだいかいはつはじ
たは祖父信綱の時代に開発が始まったと
すいでいくろかわきんざんこうしゅうしゆのおくきんざん
推定され黒川金山(甲州市)、湯之奥金山
みのむちょうつづらほうきんざんはやかわらうかなやまきん
(身延町)、黒桂・保金山(早川町)、金山金
ざんおおつきしたはやまきんざんたはやまむら
山(大月市)、丹波山金山(丹波山村)などが
し
知られています。



現在、500円硬貨には「500円」と額面が表示されます。これが当た
まり前ですが、古くは、重さで取引されていました。
ところが、甲斐の国では、額面が表示された金貨が流通していまし
た。写真の甲州金に「壹分」とあります。

こうしゅうきん
甲州金



こうしゅういち ぶ きん
甲州壹分金